

## 第7巻への投稿について

日本臨床教育学会 機関誌編集委員会

第7巻への投稿原稿を以下の通り募集します。研究論文のみではなく、現場の実践報告や事例報告等も含め、奮って投稿して下さるようお願いします。

1. 投稿原稿の締切 2018年9月15日
2. 提出先  
(株)正文舎(「臨床教育学研究」担当)  
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目4-27
3. 募集原稿は、『臨床教育学研究』編集規程の「3」にある論文、実践・事例研究論文、研究ノート、実践・事例・調査報告などです。
4. 第7巻では下記の通り、「子どもをめぐる『貧困』を問う一発達援助の実践・現場から」という特集を行います。特集向けの原稿も募集しますので、特集への投稿を希望する場合はその旨を明記してください。なお、査読の結果、特集での採用とならなかった場合にも、一般投稿として受け付ける場合があります。
5. 本学会「投稿規程」「執筆要領」「倫理規程」に従って投稿してください。とくに原稿の冒頭や末尾、本文中に、執筆者名や所属、連絡先を記載するなど、執筆者が特定されるような記述のないように注意してください(これらの執筆者情報は別紙に記し、原稿に同封して送付してください)。上記の諸規程等は、学会ホームページに掲載してあります。



### 第7巻特集テーマ

#### 子どもをめぐる「貧困」を問う — 発達援助の実践・臨床の現場から —

##### 【特集趣旨】

本学会は発達援助に関する研究課題の一つとして「子ども理解」の研究に取り組んできた。その中でとくに重視してきたのは「子どもの声」を聴き取ること、その声に込められた想いを理解して発達援助の課題を明らかにすることである。そしてその聴き取りの主体である援助実践者＝研究者が自分自身を子どもにとっての重要な環境の一つと捉え、子どもとの相互的関係性を築く姿勢を意識的に追求してきた。また、聴き取った「子どもの声」や沈黙の意味を考察するために、子どもの言動の背後にある生活の場や関わる人間などの諸環境に注目し、子どもと環境との関係をより深く理解することに大きな関心を寄せてきた。

しかし、子どもの生活する環境が発達にとっていかなる意味を持つかを考察するには、子どもを

めぐる環境に関する社会学や福祉学の研究成果からも学際的に学ぶ必要がある。なかでも「子どもの貧困」に関するそれら諸学の研究の蓄積は極めて重要である。例えば、経済的貧困という所与の環境と子どもの成長との関係を分析して「機会の不平等」の概念を提起し、それが心身の発達に及ぼす影響の大きさと子どもの過去、現在、将来にわたって持つ意味の深刻さを明らかにしてきた意義は大きい。さらに、家庭的環境を奪われた子どもが社会的養護の施設で生きる意味に着目し、養護実践の深さと重さを明らかにしてきたことも重要である。その中でもすべての子どもと環境との関係を問い返す「相対的剥奪」の概念が提起されてきたことにとくに注目したい。一定の社会で「すべての子どもが尊厳を持って生きるために享受すべき最低限に必要なもの」が何であるかに着目した「貧困」が問われているからである。

子どもの発達上の諸困難が様々な事象として現れ社会問題化している現在、われわれは子どもの身体的、精神的、文化的な発達に不可欠な環境の剥奪を「子どもをめぐる「貧困」」として捉え直し、その現実と子どもにとっての意味を探るとともに、そこから子ども理解と発達援助実践の課題をさらに深く捉える必要があるのではないか。その際、過度な競争と管理を強めている教育政策が学校や家庭、社会に及ぼす影響に注目し、それらを子どもの発達に否定的な影響を及ぼす「機会の貧困」、「関係の貧困」、「体験の貧困」、そして「人権意識の貧困」や「共感的な相談とケアの貧困」などの視点から問うことを提起したい。そのうえで学校での学習支援の実践、地域における「親の会」や「居場所」、あるいは「夜間中学」「児童養護施設」などにおける発達援助実践を見つめ直し、あらためて発達援助の意味と課題を明らかにして行きたいと思う。

本特集では、例えば、つぎのようなテーマの論文や実践報告などを想定している。

- \* 経済的困難を背負う家族の「貧困」と子どもの生存・発達をめぐる「貧困」
- \* 東日本大震災後の子ども・子育て支援実践から見える「子どもをめぐる「貧困」」の諸問題
- \* 児童養護施設での援助実践から見る「子どもの育ちをめぐる「貧困」」と発達援助実践
- \* 不登校のわが子理解の過程で親が気づく「子どもをめぐる「貧困」」の問題
- \* 競争と管理の教育がもたらす「関係の貧困」の意味を読み解く
- \* 相談とケアの現場から子どもに対する支援環境の「貧困」を問う